



## ベトナム、カンボジア王国世界遺産群を巡る旅

今回は、歴史、文化、自然遺産、加えてグルメも楽しめるベトナム、カンボジアを選びました。いつもは、ツアー1人参加ですが、慶応現役時代にお世話になりました先輩と一緒にあって、ワクワク感倍増です！

旅の始まりは、8月23日18時成田発、ホーチミン、タン・ソン・ニャット国際空港に同日の22時に到着。時差マイナス2時間です。入国審査、税関検査を済ませ、スーツケースを持って現地係員の居るロビーへ出ると、皮膚にまとわりつく様な蒸し暑さです。ベトナム最大都市とあって、ビルに道路は整備され、ブランドショップもあり、南国風の街並みに経済発展を窺うことができます。

翌朝、食事を済ませ（フォーを頂きました）ホーチミン観光です。19世紀フランス植民地の名残があり、中心部のドンコイ通りは、ベトナムのシャンゼリゼ通りと言われ、コロニアル建築や歴史的建造物が目を引きまします。中でも、中央郵便局はヨーロッパの駅舎を思わせる佇まいが私の目を釘づけにしました。床の幾何学模様のタイルも素敵です。近くの、サイゴン大教会は、赤レンガ作りで2つの尖塔が大空に延び、ヨーロッパのようです。純白のウェディングドレス姿のカップルに出会いました。見ている私達も幸せな気分になります。これは、世界共通ですね。統一会堂は緑の芝が美しい、旧大統領官邸です。前の通りでは、恐ろしいほどのバイク渋滞。人口900万に対してバイク400万台と庶民の足となっています。ガイドのブーさんも、数十キロ離れた自宅からバイクで2時間かけ、私達を迎えに来たと聞き、驚きました。ホーチミン市では、日本と共同で初の地下鉄造設工事が始まっています。工事現場に日本の国旗とベトナムの国旗が掲げられ印象的でした。地下鉄完成後には、バイク渋滞も解消されるのでしょうか。少なくとも、大気汚染は改善されると願うばかりです。

そろそろ小腹が、空いたところで、カンボジアのクメール料理は、ナンプラーや香辛料、ココナッツミルクにカピ（エビやアミを発酵させたペースト）を用います。唐辛子は個人に任せられ調整可能です。ベトナム料理は皆さんもお馴染みのフォーは米粉で作った白い麺料理です。テーブルにあるパクチー、ナンプラー、スパイスなどでお好みの味付けし、自分流で頂きます。ベトナム



(中央郵便局)



(揚げ春巻き)



料理は、80%の味付けに、まず味見して、残り 20%は好みの調味料で味付けできるので、パクチーの苦手な男性も食べられると喜んでいました。ゴク・クウン（生春巻き）はライスパーパーに海老、香草、肉を巻いて頂く料理です。作りたては柔らかくて、甘めのソースをつけて食べると最高!!揚げ春巻きはサクサク感に喜びました。この他、ココナッツカレー、淡水魚のソテー、魚はナマズでしたが、柔らかくて、臭みも無く、日本人の口にも合います。フルーツはドリアン、ドラゴンフルーツ、マンゴー、ランブータンも甘みが強く美味しいです。ドリアンは始めて食べましたが、クリームのようなようです。忘れてはいけないのが、ベトナムコーヒーです。見た目は濃く苦そうに見えるのですが、マイルドでコーヒー豆の香りと旨味が口に広がります。先輩はジャコウ猫の食べたコーヒー豆をお土産に買いました。チョット、辛かったのは、クメール鍋料理です。牛肉スープに、空心菜、キノコ、乾燥湯葉、玉子、スライス牛肉、麺を入れて、一煮たちして食べます。猛暑の中、テラス席で湯気を受けながら鍋料理は、インドアで食べたかった。いくら美味しくて、鍋は冬の料理です。

いよいよ、カンボジアのアンコール遺跡群観光です。ホーチミンより、観光の拠点地シェムリアップへ飛行機で1時間15分の移動です。アンコール・トム（大きな都城という意味）は、南大門、クメールの微笑みで知られる巨大4面像のバイヨン寺院、ライ王のテラス、像のテラス、回廊には、神像彫刻や阿修羅像の彫刻が見事です。仏教とヒンズー教の改宗は仏像を切断し、彫刻を削り取るなど、破壊現場を見ると歴史での出来事に残念な気分になります。総距離12kmとあり、猛暑の中、遮るものが無く、徒歩見学はきついです。熱中症予防に塩キャンディ、梅干しでミネラル補給し、水分補給を心がけました。日本からも3本の水を持参しました。

突然、空が割れるようにスコールがやってきました。慌て、傘をさしてアンコール・ワット（大きな寺院）の観光を続けました。1113年にスールヤヴァルマン2世が30年かけ建造したヒンズー教の神、ヴィシュヌに捧げた寺院です。広さ東京ドーム15個分です。南大門には、54基の表情が異なる観世音菩薩（悪魔像もあり）が迎えてくれます。ここで、記念撮影。他の観光客もシクロから下り、写真を撮るので、シャッターチャンスが難しいです。南大門に入り、中央祠堂へ向かうと、壁画にラーマ王率いる猿軍団と悪魔の戦い、神対アシュラの図、天国と地獄図など、古代インドの叙情詩を題材にした物語が描かれています。それは、とても繊細です。バンテアイ・スレイ（女の砦とい



（東洋のマドンナ・デパタイ像）



（バイヨン、クメールの微笑み）



う意味) 寺院は、東洋のモナリザ (デパタイ像) が有名で、クメール芸術の至宝と絶賛されています。女性らしい身体つきに、微笑むお姿にうっとりします。この寺院は、女性が建て赤色砂岩と紅土が使われ、光の加減で寺全体がピンク色、赤色に見えます。女性に人気のスポットです。

映画、地獄の黙示録の舞台となったタ・プロム寺院は、樹齢 300 年から 400 年の巨大なガジュマルの木に押し潰され、まるでジャングルの大木に寺院が飲み込まれているようです。幾重にも延びる根は、自然の驚異を感じます。建立時は、仏教寺院でしたが、後にヒンズー教に改宗し、仏像の破壊は免れなかったようです。カンボジアの人々は、ガジュマルの木が生い茂る森にハンモックを吊り、ゆったりと休んでいました。汗だくの私に比べ、実に気持ち良さそうです。



最終日は、ベトナムに戻り、ハロン湾クルーズとハノイ観光です。ハロンは (龍が降りる地という意味) 2000 もの奇岩がそそり立つ風光明媚な世界遺産の 1 つです。奇岩には、闘鶏岩 (私にはチューをしている鶏に見えました)、犬、像の顔に見える岩を眺め、船内でシーフード料理を頂きました。途中、下船し洞窟探検もあり、巨大な鍾乳石のライトアップは圧巻です。エイリアンやロミオとジュリエットのシルエットや様々な形の鍾乳石に会えます。出口から階段を下るとハロン湾のパノラマ風景も満喫できます。ハノイ観光は、ホーチミン廟、玉山祠、市内観光し、夕食はベトナム風フレンチ料理でした。日本のチョット高級レストランに負けないくらい美味しい料理でした。6 日間の旅を終え、0 時発の飛行機で帰国の途へ。今回は、汗だくの毎日で、最終日にハノイの空港ラウンジでシャワーを浴びることができ、爽快な気分で行き先へ乗り換えました。



(ハロン湾奇岩)

最後に、アジアの観光客のマナーの悪さを聞きます。今回の旅行中も、アジア圏の観光客が多く、ルール、マナー違反に不快に思うことがありました。マナーについては、国によって習慣が異なるので、仕方ないと思われませんが、将来、これらの人々がマナーのエリートになることを期待したい。さらなる、国の教育が必要かなあ…。この旅を終え、礼儀正しく、親切で笑顔の素敵なベトナム、カンボジアの人々に助けられ楽しい旅となりました。今回も、また、素敵な旅の思い出に、世界の国が増えました。

渡邊 郁美

ベトナムの世界遺産 10 選

